

2020年3月5日

各位

会社名 株式会社ステムセル研究所  
代表者名 代表取締役社長 清水 崇文  
(コード番号：7096 東証マザーズ)  
問合せ先 取締役管理本部長 乃一 進介  
(TEL. 03-5408-5279)

## 2020年3月期の業績予想について

2020年3月期(2019年4月1日～2020年3月31日)における当社の業績予想は、次のとおりであります。

【個別】

(単位：百万円・%)

項目	決算期	2020年3月期 (予想)			2020年3月期 第3四半期累計期間 (実績)		2019年3月期 (実績)	
		対売上 高比率	対前期 増減率		対売上 高比率		対売上 高比率	
売上高		1,581	100.0	37.6	1,270	100.0	1,149	100.0
営業利益		338	21.4	56.8	319	25.1	215	18.8
経常利益		338	21.4	56.6	319	25.1	216	18.8
当期(四半期)純利益		234	14.8	64.5	214	16.9	142	12.4
1株当たり当期(四半期)純利益		48円26銭			44円05銭		29円35銭	
1株当たり配当金		—			—		—	

(注) 1. 当社は連結財務諸表を作成していません。

2. 2019年3月期(実績)、2020年3月期第3四半期累計期間(実績)及び2020年3月期(予想)の1株当たり当期(四半期)純利益は期中平均発行済株式数により算出しております。

3. 当社は、2019年12月27日付で、普通株式1株につき700株の株式分割を行っております。上記では、2019年3月期の期首に当該株式分割が行われたと仮定し、1株当たり当期(四半期)純利益を算出しております。

ご注意：

この文章は一般に公表するための記者発表文であり、日本国内外を問わず一切の投資勧誘又はそれに類する行為のために作成されたものではありません。2020年3月5日の当社取締役会において決議された当社普通株式の募集及び売出しへの投資判断を行うに際しては、必ず当社が作成する「新株式発行並びに株式売出届出目論見書」(及び訂正事項分)をご覧ください。また、本記者発表文に記載されている当社の計画、見積り、予測、予想その他の将来情報については、本記者発表文の作成時点における当社の判断又は考えに過ぎず、実際の当社の経営成績、財政状態その他の結果は、経済状況の変化、市場環境の変化及び他社との競合、外国為替相場の変動等により、本記者発表文の内容又は本記者発表文から推測される内容と大きく異なることがあります。

## 【2020年3月期業績予想の前提条件】

### (1) 当社全体の見直し

当社は、1999年8月に民間さい帯血バンクとして設立され、2020年3月期（当期）で第21期となります。

当社の主たる事業は、出産時のお母さんの胎盤及びお母さんと赤ちゃんを結ぶ「さい帯」に含まれる「さい帯血」由来の細胞を保管する「細胞バンク事業」であります。

「細胞バンク事業」は、日本全国の産科施設で採取された顧客（妊婦等）のさい帯血を回収し、自社の細胞処理センターで幹細胞を分離したのち、自社の細胞保管センターにおいて長期保管することにより、細胞分離・細胞保管料を収受することをビジネスモデルとしております。

近年、当社が属する再生医療分野の発展は目覚しく、さい帯血についても米国を中心に臨床研究が進展しております。日本国内においても、2014年に再生医療等安全性確保法が施行され、事業会社が臨床研究に参加する仕組みが整えられたことから、さい帯血等を利用した臨床研究が開始され、さい帯血等の体性幹細胞の医療応用のニーズは高まってきていると当社は考えております。

このような環境の中、当事業年度において当社は、さい帯血採取協力病院への情報提供及び、新聞広告やWebを通じたマーケティング活動を深耕する事により、「細胞バンク事業」の拡大に注力して参りました。

この結果、2020年3月期の当社の業績は、売上高1,581百万円（前期比37.6%増）、営業利益338百万円（同56.8%増）、経常利益338百万円（同56.6%増）、当期純利益234百万円（同64.5%増）を見込んでおります。

### (2) 売上高

当社は、細胞バンク事業の単一セグメントであります。売上高は「技術料」、「保管料」、「その他」の3つから構成されております。

「技術料」は、細胞分離の際に必要な分離料、検査料及び登録料、「保管料」は、細胞保管料、「その他」は、主に契約更新時の更新手数料の他、分割払い手数料相当額を分類しております。

各分類は、顧客との一契約（一サービス）の内容であり、売上高の基礎となるのは、契約件数（保管（売上）検体数）となります。

2020年3月期の新規保管（売上）検体数は6,761検体（前期比45.7%増）、累計保管（売上）検体数は57,023検体（前期比13.5%増）を見込んでおり、それに伴い、「技術料」は1,249百万円（前期比47.5%増）、「保管料」は264百万円（前期比11.9%増）、「その他」は67百万円（前期比2.4%増）を見込んでおります。保管（売上）検体数の増加要因は、さい帯血採取協力病院への情報提供及び、新聞広告やWebを通じたマーケティング活動を深耕する事により、全国的に母親学級におけるさい帯血保管に関するスピーチ回数が増加した影響によるものであります。その結果、当第3四半期累計期間の売上高は1,270百万円となりました。第4四半期会計期間においても、引き続きスピーチ回数は堅調に推移しており、上記予想数値を見込んでおります。

### (3) 売上原価、売上総利益

売上原価の主要項目は、さい帯血の採取から幹細胞の凍結保管までにかかる労務費、材料費、支払技術料、検査料及び運送費となります。

労務費については162百万円（前期比57.2%増）を見込んでおります。これは検体数増加に伴う処理体制強化のため、2020年3月期に8名の増員を予定しているためです。

材料費、支払技術料及び検査料については検体数に連動する変動費項目であるため、検体予定数に、想定単価等乗じて原価を算定しており、材料費については77百万円（前期比30.3%増）、支払技術料については75百万円（前期比38.4%増）、検査料については62百万円（前期比8.0%増）を見込んでおります。

運送費については61百万円（前期比47.6%増）を見込んでおります。これは検体数増加に伴い、さい帯血及びさい帯血細胞の移送増加を予定しているためです。

以上の結果、2020年3月期の売上原価は528百万円（前期比35.7%増）、売上総利益は1,053百万円（前期比38.5%増）をそれぞれ見込んでおります。

### (4) 販売費及び一般管理費、営業利益

販売費及び一般管理費の主要項目は人件費と広告宣伝費となります。2020年3月期の販売費及び一般管理費は715百万円（前期比31.3%増）を見込んでおります。

そのうち、人件費については332百万円（前期比45.2%増）を見込んでおります。これは営業体制及び管

#### ご注意：

この文章は一般に公表するための記者発表文であり、日本国内外を問わず一切の投資勧誘又はそれに類する行為のために作成されたものではありません。2020年3月5日の当社取締役会において決議された当社普通株式の募集及び売出しへの投資判断を行うに際しては、必ず当社が作成する「新株式発行並びに株式売出届出目論見書」（及び訂正事項分）をご覧いただいた上で、投資家ご自身の判断で行うようお願いいたします。「新株式発行並びに株式売出届出目論見書」（及び訂正事項分）は引受証券会社より入手することができます。また、本記者発表文に記載されている当社の計画、見積もり、予測、予想その他の将来情報については、本記者発表文の作成時点における当社の判断又は考えに過ぎず、実際の当社の経営成績、財政状態その他の結果は、経済状況の変化、市場環境の変化及び他社との競合、外国為替相場の変動等により、本記者発表文の内容又は本記者発表文から推測される内容と大きく異なることがあります。

理体制の強化のために、当事業年度末には前事業年度末と比較して、営業本部2名、管理本部1名の人員の増加を予定しているためです。

また、広告宣伝費については80百万円（前期比56.8%増）を見込んでおります。これは直接の顧客となる妊産婦様への情報提供の質と量を増やすことを目的とした新聞等紙媒体及びWebによる積極的なマーケティング活動を予定しているためです。

以上の結果、2020年3月期の営業利益は338百万円（前期比56.8%増）を見込んでおります。

(5) 営業外損益、経常利益

営業外収益については、2020年3月期第3四半期累計期間の実績は0百万円であり、第4四半期においても重要なものは発生しないと見込んでおります。また、営業外費用については、2020年3月期において発生は見込んでおりません。

以上の結果、2020年3月期の経常利益は338百万円（前期比56.6%増）を見込んでおります。

(6) 特別損益、当期純利益

特別損益については、2020年3月期において発生は見込んでおりません。

以上の結果、2020年3月期の当期純利益は234百万円（前期比64.5%増）を見込んでおります。

本件で開示する情報の中には、発表日現在の計画・見通し・戦略等の将来情報が含まれております。これらの将来に関する記述は、当社が現在入手可能な情報に基づき、合理的であると判断する一定の前提の下に作成されており、リスクや不確定要素等の要因が含まれているため、会社の将来情報と実際の業績とは乖離する可能性があります。

ご注意：

この文章は一般に公表するための記者発表文であり、日本国内外を問わず一切の投資勧誘又はそれに類する行為のために作成されたものではありません。2020年3月5日の当社取締役会において決議された当社普通株式の募集及び売出しへの投資判断を行うに際しては、必ず当社が作成する「新株式発行並びに株式売出届出目論見書」（及び訂正事項分）をご覧いただいた上で、投資家ご自身の判断で行うようお願いいたします。「新株式発行並びに株式売出届出目論見書」（及び訂正事項分）は引受証券会社より入手することができます。また、本記者発表文に記載されている当社の計画、見積もり、予測、予想その他の将来情報については、本記者発表文の作成時点における当社の判断又は考えに過ぎず、実際の当社の経営成績、財政状態その他の結果は、経済状況の変化、市場環境の変化及び他社との競合、外国為替相場の変動等により、本記者発表文の内容又は本記者発表文から推測される内容と大きく異なることがあります。